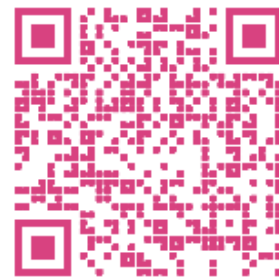
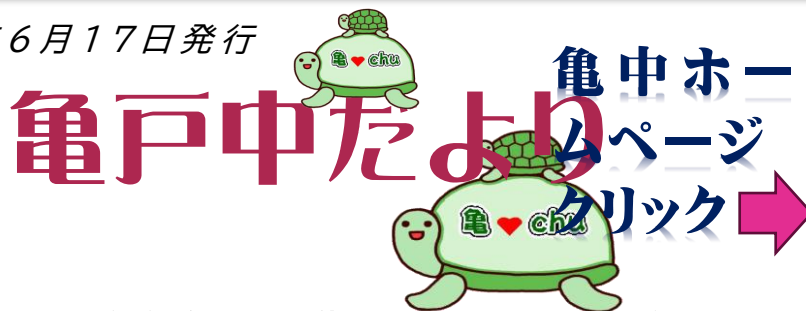


令和8年6月17日発行



本校教育目標

「思いやりの心もち、主体的に行動できる人間を育成する」  
「探究」「敬愛」「挑戦」



## 全員にとっての「安全・安心」を目指して

生活指導主任 山本 拓

今月の生活目標は「安全・安心を守れる生活をしよう」です。「安全・安心」と言っても色々な視点があります。1つ具体的に上げると、先月から教室の校庭側の窓についたストッパーも安全を守っているものです。緩んだり、一時的に取れてしまったクラスもあると聞きましたが、意図的に外したり、触ったりしないようにしましょう。担任の先生が毎日チェックをしています。



さて、ある数字について考えてもらいます。「172」です。何の数字でしょうか。去年1年間の全国の中学生に関わる数字です。「172」...一体何の数字でしょうか。実は、話をするかどうかすごく悩みました。昨年度172人の中学生が自らの命を絶ってしまったそうです。これは社会的な事実です。

この数字は、毎年比べるものではないです。「少ないから良かった」とか、「多かったから改善しよう」というものではなく、1人でもいることがとても悲しく、個人的な思いとしては1人もいてはいけないと思います。「自ら命を絶ってしまうこと」はテーマとしてはとても重たく、極端な例なのかもしれませんが、私達の身近にある一人一人の悩みや不安をなくしていくきっかけにしたいと思って話しました。

誰かの不安や悩みが蓄積されるようなことがないように、不安や悩みが抱えきれない状態にならないようにしましょう。中学生は悩みや不安が多くなる年頃ですが、亀戸中学校という学校で過ごす時間は全員にとって「安全・安心」なものにしたいです。そのために今日は一緒に考えてください。「安全・安心」について大切なことを私から2つ話します。

安全・安心のために守ってほしいことの1つ目は「悪口や陰口を言わないこと」「しつこく人をいじらないこと」です。悪口や陰口を言われた人は、

人間不信、人を信じることができなくなります。自信がなくなったり、心にトラウマを抱えたりします。

亀戸中学校には、誰かの悪口や陰口はないでしょうか。ある人の見た目、外見について話題にしていじったり、話し方や笑い方など、些細な行動についていじったりしている場面を見たり聞いたりしたことがあります。

好きな人のことをわざわざ他の人に聞こえるような声で話したり、いじるように大きな声で話したり、そんな場面に遭遇したことも多々あります。言われた方は「いじり」なんていう風には捉えていません。いじられた人が言い返す「やめろよ」は心の底からの気持ちです。悲しいし、嫌な気持ちになっています。言い返さない人も心の中では深く傷ついています。

テレビやユーチューブでは人をいじって笑いを取るような場面がよくあります。あれはプロ同士がお金をもらう仕事として行っている高度な技術が伴うものです。

「仲が良いから大丈夫」とか、自分たちの関係性を勘違いしたり、相手の捉え方を甘く見ていると、取り返しのつかない深い心の傷を作ることになります。

また、やられたらやり返すこともやめましょう。悪口を言ったり、いじったりする人はどんどん自分自身を悪くしていくことになります。「悪口や陰口・いじり」直接も **SNS** でのやり取りでも絶対にやめましょう。

安全・安心のために守ってほしいことの2つ目は「怪我や事故が起きない環境、落ち着いて過ごす環境を作る」ことです。最近気になるのは、廊下を走っている生徒が多いことです。部活動でのトレーニングで安全を守りながら走っている時もありますが、普段の休み時間でも廊下を走る人が多いです。ぶつかったら危ないだけでなく、「走っている人がいる」というバタバタとした環境に不安をもつ人が実はたくさんいます。

必要のない大きな声、叫ぶような奇声に不安を持つ人もたくさんいます。そのような行動も誰かの安全・安心を奪ってしまうことを知ってください。「廊下を走ることや、必要以上の大きな声を出すこと」を学校生活の中で互いに注意し合って気をつけてほしいと思います。例えば職員室の前や、6組の教室の前など、そこで誰がどのように過ごしているかを考えられると、行動が改善されると思います。

「安全・安心を守れる生活をしよう」まずはそれぞれのクラスで実現させていきましょう。互いに注意し合ったり、支え合うことが重要です。意識して、実行してください。

